

庄内町科沢保全会（代表 加藤 敬さん）は、多面的機能支払交付金を利用し、水路や農道の保全活動、植栽活動などを行っています。

昨年8月、若手農業者の加藤洸さんに白羽の矢が立ち、保全会の事務局を担当することになりました。

加藤さんは、鶴岡工業高等専門学校専攻科応用化学コースを修了し、県外企業で研究開発に携わっていましたが、科沢に戻り、4年前から、実家の農業を継いで28ヘクタールの水田を耕作しています。

事務局はゼロからのスタートですが、庄内町の実施した中間ヒアリングで交付金制度を分かり易く説明してもらったこと。そして県多面的推進協議会が開催した、若手・女性等事務担当者の育成研修会に参加したことで、急速な成長曲線で理解を深めました。

「交付金を利用し、これまでの農村地域づくり活動を継続していきたい」「農道舗装工事を進めたい」「若者による草刈り隊の活動を支援していきたい」と話しています。

